

## 2019 年度日本天文学会天文教育普及賞

【受賞者】 藤井 旭(ふじい あきら)

【活動名】 天文台創設・著作・天文行事主導等、多岐にわたる天文学の教育普及

藤井旭氏は、1969年に星仲間たちと共同で栃木県と福島県境に広がる那須高原の一角に白河天体観測所、また1995年に南半球のオーストラリアにもチロ天文台をつくり、北半球のみならず南半球の星空の美しさを紹介し、多くの星好きを育てた。

著作には、『天体写真の写し方』(誠文堂新光社・1970年)、『透視版 星座アルバム』(誠文堂新光社・1972年)、『星になったチロ』(ポプラ社・1984年)、『星が光る星座早見』(偕成社・1995年)、『白河天体観測所物語』(誠文堂新光社・2015年)など、天体写真入門書、写真集、図鑑、天体観察入門書・ガイドブック、エッセイなどの多岐にわたる四百冊にも及ぶ著書がある。これから星空を見てみようとする初心者を考慮した構成、天文宇宙への親近感を感じさせる独特のイラストにはファンも多い。さらに、星空観察を通じて自然の美しさや星を通じた交流の大切さを語り、読書感想文コンクール課題図書になるなど、天文宇宙への関心を高めた。

特に天体写真の分野では、星雲や星団などの天体写真の撮影技術の開発や実践を行い、独自の表現方法を用い、恒星の色を引き立たせるためのディフュージョン・フィルターを用いた美しい作風において、天文に興味のない人々も含め多くの人を魅了した。また、星座写真と透明シートを組み合わせることで、星や星座を見つけやすくする工夫なども開発した。このことは、星空で星座を探してみようという意欲にもつながり、星空を見ることの楽しさを伝えてきた。さらに、天体写真撮影に興味を持つ人向けには、その手法に関する記事や書籍を公開し、多くのハイレベルな天文アマチュアを生み出していった。また、天文雑誌への寄稿も半世紀以上におよび、自身の撮影写真を天文普及の目的で提供するなど、天文教育への多くの協力をおこなっている。

さらに日本の星まつりの草分け的存在とも言える「星空への招待」を作り上げた一人であり、ハレー彗星キャラバンなど一般の人々が参加することができる天文行事を主導していった。その後の星祭りブームをつくったとも言え、その活動は国際的に知られている。

以上天文普及に対し長期・多岐にわたる多大な功績があることから、藤井旭氏に2019年度日本天文学会天文教育普及賞を授与する。